

### 【意見】

文部科学省の発表した航空機モニタリング測定結果にて沼田市の山岳部付近で、福島原発の60キロ以内の放射線セシウムと同等数値の値がでてますが沼田市では、市民への報告 注意 対策など行っているのでしょうか。ネット環境の整っていないエリアの人たちは何も知らされてないまま噂程度の情報で、危機感がないように思われますがいかがでしょうか。事後報告では、取り返しのつかないことになると思います。

男：30代：沼田市在住

### 【回答】

福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の拡散の問題では、様々な情報が錯綜していて、ご不安を抱かれていることと存じます。

文部科学省が8月下旬から9月上旬に行った航空モニタリングの測定結果により、放射性物質の面的な拡散状況もあきらかになってきました。本市の状況は池田地区と桐生・みどり市境の根利地区の一部に高い値を示す地点（毎時0.5～1.0マイクロシーベルトの区分）があることがわかりました。航空モニタリングは、航空機を3キロの幅で高度150～300mで飛ばし、下部に設置した測定器により地表1mの放射線量を推計するというもので、山間部を越えて測定する場合は低く、逆に谷等を越えて測定する場合は高めの測定結果が示されることも説明されています。そこで、池田地区の21世紀の森周辺の数地点で地上から地表面1mの空間放射線量を測定したところ、毎時0.22～0.41マイクロシーベルトという結果でした。

市内の空間放射線量測定は、県が5月から6月にかけて小中学校・幼稚園・保育園などを中心に測定を行い、また、本市も7月から市内7地点で月に一度の定点測定を行い、初回7月の結果は8月15日に全戸配布を行い、8月以降の結果は広報ぬまたの災害関連のページでお知らせしています。この測定結果からは、いずれの地点でも国の安全指標とされている毎時1.0マイクロシーベルトを大きく下回っており、専門家からも健康への影響は心配ないと評価いただいています。農産物については、県と連携し、出荷を迎える時期に検査を実施し、放射性物質はほぼ検出されておらず、一部検出されたブルーベリーなどでも暫定規制値の500ベクレル/kgに対し6.4ベクレル/kgと極微量でありました。県の測定結果は、随時新聞発表と県ホームページで公表しています。また、水道水は、事故直後の3月23日に極微量（暫定規制値200ベクレル/kgに対し7.4ベクレル/kg）測定されていますが、以降は検出されていません。

このようなことから、本市の状況は安全であると判断しているところですが、マイクロスポットと言われる雨水が溜まる地点などで高い放射線量を示す場合があることから、現在、優先順位が高い子どもたちの生活空間である小中学校等や公園などで汚染された土砂等の除去を行っています。さらに、比較的高い放射性物質の飛散がある地域を国が重点調査指定地域として指定して財政支援を行う考え方を示しましたので、本市も地域指定の希望を出しており、指定後の除染計画の中で生活圏を中心に対応していきたい考えでおります。この関係は、具体的な部分が国から示されたところで、改めて、市民のみなさんに周知していきたいと考えております。

担当：市民部環境課